

1 会議の名称

平成29年度岩手県立住田高等学校第2回学校評議員会

2 会議の構成

(1) 学校評議員

菅野 英子 氏	住田町社会福祉協議会
金野 康己 氏	東海精密工業株式会社岩手事業所次長
佐藤 香奈 氏	会社員
佐藤 清司 氏	会社員
佐藤 智一 氏	住田町立世田米中学校長

(2) 学校職員

鈴木 広樹	校長
伊藤 正則	副校長
利府 崇	教務主任
三浦 天豪	総務主任
松田 隆宏	生徒指導主事
西出 和久	進路指導主事

3 会議の開催

平成30年2月19日（月）14：20～15：55 〔住田高等学校会議室〕評議員4人、学校職員5人

4 会議の次第

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 学校概況（経過）報告について
- (4) 学校評価に係る報告について
- (5) 意見交換
- (6) その他
- (7) 閉会

5 会議の概要

(1) 校長挨拶

今年度も、生徒達はよく頑張って活動してくれた。例えば、第99回全国高校野球選手権岩手大会開会式における選手宣誓や、アーチェリー部のインターハイ及び国体出場などがあった。学校評議員として任期満了を迎える2名の方については、3年間にわたって活動していただき感謝の念に堪えない。本日は今年度の取組について、皆様から忌憚無きご意見を頂戴したい。

(2) 意見交換

ア 評議員

学校評価アンケート調査結果について、教育活動に対する生徒等からの肯定的評価が高いとのことだが、他校と比較した場合はどうか。

学校側

本校における肯定的評価については、「授業が分かるか」との質問に対して「分かる」と回答した生徒が90%もあり、他校と比較して高いものと認識している。

教員としての経験上、本校の生徒は居心地よく学校生活を送っているという印象が

あるし、生徒の人柄として、教員に「生徒のために何かしてあげたい」と思わせる生徒が多いと思う。

ただし、学校として、授業が分かるということと出来るということとは必ずしも一致しないことに留意が必要であると考えている。今後は、学習や進路に関して生徒がより高いレベルも意識して行動できるよう、学校として適切な情報提供や教育活動を行っていくとともに、生徒の基礎力を養成する取組を進めていきたい。

評議員 学校評価アンケート調査結果における生徒の肯定的評価では、特に「授業が分かる」と回答した率が高いのはいいこと。その良さを今後伸ばして行ってほしい。

平成29年度、10名の生徒が四年制大学に合格しているということはとても素晴らしい。住田高校で頑張れば四年制大学にもきちんと入れるということを知れば、今後、もっと多くの生徒が住田高校に入学してくれるのではないかと期待する。

また、最近、住田町社会福祉協議会による地域活動が全国的に取り上げられることが多くなった。特に中高生がボランティア活動等を通じて積極的に地域活動に参加していることが高く評価されており、実践に触れた方々が住田高校を訪問してみたいと言っていることを共通認識していただきたい。

イ 評議員 整容点検を数多く行っているとのことだが、点検の時だけ整えるものの日常生活では乱れた服装で生活するといった生徒はいないのか。

学校側 点検の時だけ服装を直すといった例は若干あるが、点検時と日常生活との服装の格差はとても小さく、乱れた姿で日常生活を送っている生徒はいない。

また、本校の生徒は清掃等も主体的に一生懸命取り組む真面目な生徒が多い。

ウ 評議員 学校評価アンケート結果において学校側から肯定的評価が高いとの説明を聞いてとても嬉しく思う。今後、生徒が「自分達の学校はこんな所が良いんだよ」と言えるよう、良い所を伸ばして行ってほしいし、生徒が自身の言葉で中学生や地域の人達にアピールできる機会があってもよい。

エ 評議員 互見授業について、授業を見てからどのように教員研修につなげているのか。

学校側 教員の負担感軽減等を考慮し、基本的に授業を見た教員がその感想を用紙に記入し授業者へ渡すという形をとっている。

なお、県教委による「学力・授業力向上の取組に係る個別訪問」を互見授業期間に組み込むことにより、互見授業の一部は指導主事を交えて該当教科内の研究協議を行うという工夫も行っている。

評議員 生徒の進路意識を確立していく取組についてはどのように行っているのか。

学校側 進路指導課が学年と連携しながら、例えば大学見学会や職場体験、インターンシップ、進路ガイダンス等を通じて、1年生の時から進路意識を高める取組を行うとともに、学級担任が随時面談を行いながら生徒の進路意識確立に努めている。生徒が自身の進路を確立するのは3年生の夏休み頃である。

評議員 生徒募集については、どのように行っているのか。

学校側 中学校の高校説明会において、主に副校長がパワーポイントの映写を活用して本校の特徴についてプレゼンテーションを行っている。

また、中学校の高校説明会とは別に、校長が住田町教育長様等と一緒に、町外の中

評議員

学校を訪問し、本校の特徴等について説明を行い生徒募集につなげている。

本町においては、研究開発学校事業等、従前から中高連携の取組を盛んに行っている。この基盤を基に、高校一日体験入学の取組とは別に、例えば町内中学生が住田高校を訪問する機会を設定し、住田高校の生徒自らが住田高校の良さを説明するといった機会を設けられたら良いと考える。

「住田高校が募集停止になったらどう思うか」と中学生の保護者に聞くと、「困る」という回答が返って来る。本町の中高生は地域活動に大いに貢献しており、地域にとってなくてはならない存在である。今後はもっと住田高校の良さをアピールする取組を進めてほしい。

### (3) その他

次回の開催日程は、平成30年5月18日（金）午後の予定であることを確認した。